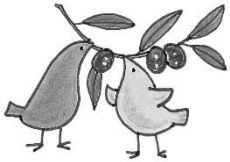


小学校だより

第294号

杉並区久我山4-29-60

立教女学院小学校

<http://es.rikkyojogakuin.ac.jp/>

遠足の一コマから

校長 児玉 純

「来るぞ、来るぞ。」と言われていたコロナの感染拡大第8波が、インフルエンザと共にやってきました。これからも、今までと変わらぬ警戒と対策が必要です。かといって、必要以上に恐れることなく冷静に判断し、行動していきたいものです。

先日、6年生と一緒に鎌倉の遠足に行ってきました。幸い天気にも恵まれ、ややハードな大仏ハイキングコースを歩いてきました。いくつか難所があり、上着を脱いでもうっすら汗をかくほどでした。お楽しみのお弁当は、頼朝像のある源氏山公園。記念写真を撮った後、子ども達は早速いくつかのグループに分かれてお弁当を食べ始めました。私達より先に来ていた学校も、先生の合図でお弁当になりました。私もおにぎりにかぶりついていると、通りかかったおばあちゃんのハイカーが、「あれ、みんな背中を見ながら食べてるよ。」と、あきれたように言いながら通っていきました。周りを見ると、本校の6年生も、もう一つの学校もそれぞれ同じ方向を見て、つまり友達の背中を見ながら黙ってお弁当を食べています。この光景は、私たちはもう3年近くも続けてきていて当たり前のようになっていますが、そう言われてみるとなんとも不自然な光景でした。それを不自然と感じなくなっている自分にも驚きました。

聖書の中では、会食の場面がよく出てきます。イエス様も親しい人たち、また、親しくなりたい人たちとよく食事をされていました。食事は単なる栄養補給や空腹を満たす手段ではなく、大切なコミュニケーションツールとしての意味があります。子ども達にとって、また、私たち大人にとっても、この失われたコミュニケーションの時間は大きな痛手です。本校の全員そろって食堂でいただく給食は、大きな特色であると共に恵みの時でもあったと聞いています。現在は、ご承知の通り、半分の学年が同じ方を向いて静かに給食を食べています。皆がお互いの笑顔を見ながら楽しく会食できる日が早く戻ってきますようにと祈っています。

一方、5年生の稲刈りから始まり、6年生の南三陸、運動会、4年生のスタディツアー、遠足などの様々な行事が無事に終わり、2学期の大きな行事は、クリスマスを残すのみとなりました。コロナに負けず、コロナ前と同じように宿泊行事も行うことができた事に本当に感謝します。「子どもは行事で育つ」と、学校ではよく言われます。教室での座学も大切ですが、実際に目にした事、聞いた事、話をした事、触れた事など、自分が経験した事は強く心に残ります。そして、嬉しかったり、悲しかったり、感動したりすることが子ども達の心を大きく成長させます。うまくいった事、失敗した事の全てが子ども達の生きる力につながっていくのです。私たち立教女学院小学校の教職員は、子ども達にそんな経験をたくさんさせたいという思いでいます。

先日、クリスマスツリーの点灯・祝福式が行われました。高校校舎の中庭で、LEDのイルミネーションの光にクリスマスツリーが包まれました。立教女学院小学校もクリスマスシーズンに入り、クリスマスカードを作る5年生、聖劇を演じる6年生にとっては、忙しい日がしばらく続きます。奉仕をする者も奉仕を受ける者も、イエス様の誕生を心から祝い、温かいクリスマスと新年を迎えられますようにお祈りいたします。



1・2年生 ～平和の森公園～

平和島アスレチックで身体をたくさん動かして遊びました。1年生は初めてのことに物怖じせず、進んで水辺のアスレチックや、高い所に挑戦していました。その様子を心配したり励ましたりしながら見守る2年生は、まさに「お姉さん」そのもの。この優しさに包まれた光景を、いつまでも大切にしていきたいと感じる遠足でした。

～日記より～

- 遠足できょうかすることでみんなをまもれることやチームワークの大切さを学ぶことができました。
- 2年生になったら、体も大きくなったし、ゆう気も出るようになったので、早くあんぜんにできるようになりました。
- 2ねんせいのパートナーとあそびアスレチックは、さいこうにたのしかったです。



3年生 ～フィールドアスレチック横浜つくし野～

1、2年生の時に平和島アスレチックを経験している学年のため、今年度は少しレベルアップしたコースにチャレンジしました。つなを登って頂上を目指すコース、水に浮かぶいかだの上を渡るコースなど、難しいものにも負けじと取り組んでいました。アスレチックが得意な子が、「ここを持つと簡単だよ!」「タイミングよく、がんばって!」などとアドバイスをしたり、落ちそうになった子をみんなで支えたりする姿が見られました。挑戦する中でさらに仲間意識を深められたと思います。秋晴れの中、自然の中で思いっきり体を動かして、思い出の1ページを作ることができました。



5年生 ～高尾山～

今年度の5年生にとっては、今回が初めての山登り遠足でした。そうはいっても高学年ということで、行きは「6号路」、帰りは「稲荷山コース」という高尾山で最も登りがいのあるルートを選択。道幅がせまく傾斜が急で、一列にならないと歩けないような難しいコースですが、紅葉や川のせせらぎを楽しみつつ、友達同士で励まし合いながら歩きました。また、当日は遠足日和の素晴らしいお天気だったので、登り切った頂上では富士山まで見渡せる美しい眺望が待っていました。山道では、登山者の方とすれ違う際に「こんにちは!」と気持ちよく挨拶をしたり、自分たちで考えて道の端に寄ったり、先をお譲りするなど、身体だけでなく心も成長することのできる遠足になったようです。



6年生 ～鎌倉～

NHKの大河ドラマで注目されている鎌倉。6年生は社会科で歴史の学習をしているので、そこも注目ポイントに、「いざ 鎌倉へ!」

江ノ電に乗り、まずは大仏を見に行きました。大仏からさらに奥まったところから、山登りスタート。3年生の高尾山以来の山登りで、心配な人は前の方に、得意な人は後ろに分かれて歩き始めました。終わりが見えない階段に心折れかけましたが、友達とおしゃべりしながらだと、その大変ささえ楽しめるのが、遠足の醍醐味です。狭い切通しも、山を越えないとたどり着けない鎌倉の中心部も、源氏が鎌倉に幕府を開いた理由の一つだということをもっと感じたハイキングとなりました。



源頼朝像と一緒に!

源氏山公園の頂上の源頼朝像の前でお弁当を食べ、ゴールの鶴岡八幡宮を目指しました。

鎌倉とその歴史を存分に味わう遠足になりました。

《4年生 金砂郷スタディツアー 4A・11/9～10 4B・11/10～11》

4年生のスタディツアーに宿泊で行くことができたのは、3年ぶりとなります。

1日目、まずはサメの展示が豊富な大洗水族館へ。海や河口が目に見える景色のよさ、水しぶきがかかるほど迫力満点のイルカショーなどを楽しみ、広い水族館の中をゆったりめぐりました。続いて、浅川散策。ここがいわゆる「金砂」と呼ばれるところです。山が近く、自然に囲まれていることを感じました。バスから降りると、「空気がおいしい！」という声があがりました。夕食のメニューは、茨城の新鮮なお野菜をたっぷり使ったけんちん汁とみんなが大好きなからあげ。デザートに、幻のりんご「こうとく」をご用意してくださいました。小ぶりですが、甘みがしっかりつまった香りのよいりんご。2日ほどで傷んでしまうため、市場に出回る前にその土地で消費され、売り切れてしまうそうです。夜は、星座観察をしました。まぶしいほどの月明かりのため、星座観察には適さない夜でしたが、その代わりに、天体望遠鏡で美しい月のクレーターを鮮明に見ることができました。



2日目、金砂の方々に教えていただき、竹トンボを作りました。竹にキリで穴をあけたり、ろうそくの火であぶって竹をひねったり、初めてのことでなかなかうまくいかない場面もありました。しかし、「教えてください!」「穴が開きません!」と、金砂の方々に自分から助けを求め、お手伝いしていただきながら何とか完成しました。飛ばし方にもコツがあるようで、ああでもないこうでもないと試行錯誤しながら、だんだん上手に飛ばせるようになりました。



最後に、この土地を支えている久慈川の生き物や植物について、「茨城生物の会」の先生方に教えていただきました。川の自然を守ることの大切さを教えていただくとともに、「ものごとを一面だけから捉えるのではなく、いろいろな考え方ができる人になってほしい。」という大切なメッセージも受け取りました。

金砂の豊かな自然の中でさまざまなことを学び、キャンプとはまた違う経験ができました。来年、金砂の地を訪れることを楽しみにしながら帰路に着きました。



《3・4年生 作家のお話を聞く会》

絵本と童話 子どもの本の物語をかき 絵をかき 翻訳をしている

子どもの本の森の住人 **ながわちひろ**さんのお話とワークショップで幸せな気分になりました♪

- ★作家になったのは?・・・小学5年生のある日、学校の図書室で本を作る人になりたいと思った。仕事になったのは30才になってから。ずっと心に願っていたら叶うことがあるの。
- ★絵本は絵を読むもの、大きくなってからよくわかる絵本もある・・・訳書『ひみつのピクピク』（あかつき教育図書）の気持ちがわかるのはみなさんぐらいの年齢から。ドキドキしたり、つらかったり、苦しい気持ちになったり、いっぱいいろんな経験をした人の方が本は面白いものになるの。
- ★“おはなしの種、・・・「子どもたちには一人ひとり守護天使がっていますよ」と言われ、「そうだ!マイ天使がいるんだ!」と信じて天使を探したカトリックの幼稚園児だった時のこと。父親が転勤族だったために動物を飼えず「犬を飼ったら何て名前にしようかな」と、たくさん名前を考えていた時のこと。そういったことが著書『天使のかいかた』（理論社）のおはなしの種。
- ★「へんないきものひろっちゃいました」どうする?・・・想像力は心の筋力。楽しく筋力アップしよう♪
楽しい時間はあっという間に過ぎました。